

2004. 7

霊性センターニュース

190号



白ユリ 聖母マリアの純潔を象徴
ローマではジュピターの妻
ユノの、乳房からこぼれた
乳から咲きいでたとされる。

「命の源は音楽」

カルメル会 中川 博道

先日、中世期の「音楽」について面白い記事を読みました。「中世音楽の精神史」によると、中世期の人々は「神が創造した世界の調和とその調和の根本原理」そのものを「音楽」として捉えていたということです。わたしたちが普段耳にするメロディーとしての音楽は、そのような「根本原理としての音楽」から生じた現象のひとつに過ぎないと著者は記しています。この世界の根源のないのちであるお方の美しい豊かなハーモニーのようなイメージがこの中から伝わってきます。わたしたちが聴く聖歌としての音楽も、この根源的な「響き」そのものであるお方につながっていく生きた共鳴であるはずです。

現代を代表するある二人の作曲家について次のように紹介されていたことがありました。

「隠者のような生活をする彼は、自ら砂漠を作り出すことで、その砂漠に秘められた泉に耳を澄ます。」

「今まで学んできたことを捨てられるだけ捨てて、裸の状態になったときに響いてくる内からの声こそが、自分の音楽の源泉であると言う。」

変動の激しい、あふれるばかりの情報に流されてしまいがちな時代にあって、「本当の自分」「与えられている命としての自分」を生きるために、わたしたちは、どこで、どのような態度で、「泉」である「内なる声」のうながしを聴くことが出来るのでしょうか。わたし達の命の源であるお方が「音楽」と呼ばれることの気づきは、わたしたちに祈ることの奥行きを教えてくれるように思います。わたしたちはこの根源としての「響き」に共鳴しながら、現代にどのような音楽となっていけるのでしょうか。

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。

昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。

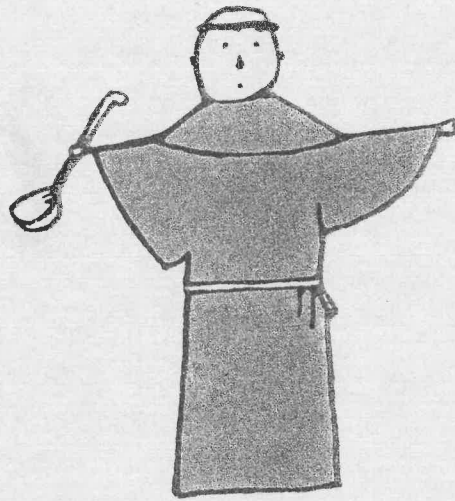
話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。

しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。

神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。(詩篇 19)

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。(ヨハネ 1.14)

カルメル会の企画案内



1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

4月 3日～ 4日・・・九里彰師

9月4日～ 5日・・・奥村一郎師

5月 8日～ 9日・・・奥村一郎師

11月27日～28日・・・九里彰師

6月26日～27日・・・九里彰師

'05/3月19日～20日・・・奥村一郎師

2. 奉獻生活者のための黙想会

・ 7月27日(火) 16時 ～8月 5日(木) 朝・・・渡辺幹夫師

・ 8月11日(水) 16時 ～8月20日(金) 朝・・・テプリアノ師

・ 12月27日(月) 16時 ～1月5日(水) 朝・・・九里彰師

3. カルメルの聖人を見つめ靈性を深める

(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

(1) 4月21日

(1) 5月26日

(2) 6月 2日

(2) 7月 7日

(3) 9月29日

(3) 11月24日

(4) 12月1日

(4) 1月19日

(5) 2月16日

(5) 3月 2日

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

(1) 5月22日(土) 16時～23日(日) 16時

(2) 11月6日(土) 16時～7日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)・・・九里彰師・原修士

10月29日(金) 16時～31日(日) 16時

6. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで

(1) 復活祭 4月10日(土) 夕食なし～11日(日) 朝食あり

(2) クリスマス 12月24日(金) 夕食なし～25日(土) 朝食あり

(3) 復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食～27日(日) 朝食

(4) 聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食～27日(日) 朝食

7. ユース リトリート《カルメルの泉》 青年男女 大瀬高司師

(1) 5月1日(土) 16時～2日(日) 14時 了

* 年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特別黙想会

最初の日夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

① 6月 7日(月) 20時～ 9日(水) 15時 新井延和師 了

② 10月25日(月) 20時～27日(水) 15時 新井延和師

③ 5月28日(金) 20時～30日(日) 15時 了

“わたしは神をみたい。”カルメルの霊性 Sr. 伊従信子

④ 11月19日(金) 20時～21日(日) 15時

“テレーズと共に祈る” Sr. 伊従信子

9. 待降節黙想会 チプリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時



* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

[カルメルの靈性研究クラス]

* 十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」

6月23日、7月8日(木)、10月6日、10月27日。
(6月23日は、第3部第26章～第29章を読みます。)

* アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」

6月30日、7月14日、10月13日、11月4日(木)。
(6月30日は、第30章を読みます。)

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

[祈りの集い]

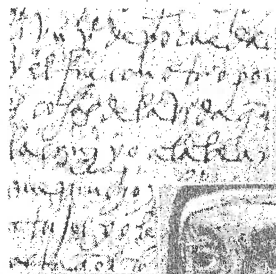
6月25日、7月16日、10月29日、11月26日、12月17日
毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い(茶話会)

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里^{くのり} 彰神父



2004年 黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

【聖書深読黙想会 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日(土)～25日(日)	新井延和神父	了
2月28日(土)～29日(日)	福田正範神父	了
4月24日(土)～25日(日)	中川博道神父	了
5月29日(土)～30日(日)	福田正範神父	了
6月26日(土)～27日(日)	奥村一郎神父	了
7月24日(土)～25日(日)	福田正範神父	了
9月 4日(土)～5日(日)	新井延和神父	了
10月30日(土)～31日(日)	中川博道神父	了
11月20日(土)～21日(日)	九里 彰神父	了
12月11日(土)～12日(日)	奥村一郎神父	了

【青年のための黙想】

・男女性のため	4月18日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士. カルメル宣教会
	10月17日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士. カルメル宣教会

【一般のための黙想】

・水曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
	1月 21日(水) 受肉の神秘	新井延和神父 了
	2月 11日(水) イエスの祈り	アロイジオ神父 了
	3月 17日(水) 聖ヨセフ	福田正範神父 了
	4月 14日(水) 復活	新井延和神父 了
	5月 19日(水) マリア様と共に	奥村一郎神父 了
	6月 16日(水) 聖 霊	長岡幸一神父 了
	7月 21日(水) カルメルの祈り	新井延和神父
	9月 15日(水) 十字架の神秘	福田正範神父
	10月13日(水) アピラの聖テレジア	シスターベアトリス
	11月17日(水) 諸聖人の通功	長岡幸一神父
	12月15日(水) 十字架の聖ヨハネ	奥村一郎神父

・四旬節の黙想 3月6日(土)午後5時～7日(日)午後4時 福田正範神父 了

・待降節の黙想 12月4日(土)午後5時～5日(日)午後4時 中川博道神父

・聖テレーズの黙想 伊従信子氏
9月30日(木)午後5時～10月1日(金)午後4時

【奉献生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

7月11日(日)～ 7月20日(火)	新井延和神父
8月 2日(月)～ 8月11日(水)	中川博道神父
8月16日(月)～ 8月25日(水)	福田正範神父
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範神父

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法:一

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX あるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないことがあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の日静修～（2004）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてもいいでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日（月）「聖ルカに聞く（1）」	松田浩一 神父
第2回	2月11日（木）「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司 神父
第3回	3月23日（火）「聖ルカに聞く（2）」	松田浩一 神父
第4回	4月29日（木）「わたしたちの召命」	中川博道 神父
第5回	5月25日（火）「聖ルカに聞く（3）」	松田浩一 神父
第6回	6月29日（火）「恵みの梅雨」	松田浩一 神父
第7回	7月19日（月）「神の国への道標」	松田浩一 神父
第8回	9月28日（火）「聖ルカに聞く（4）」	松田浩一 神父
第9回	10月11日（月）「神の家族」	中川博道 神父
（真に申し訳ありませんが中川神父の都合上により松田浩一神父変更）		
第10回	11月23日（火）「わたしたちの使命」	九里 彰 神父

*時間 いずれも AM10:00～PM4:00

*場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分）
（駐車場は利用できません。）

*費用 1,000円

*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

*定員 約15名

プログラム	10:00～	祈り
	10:45～	講話【1】
	12:00～12:45	昼食
	12:45～	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30～	講話【2】
	14:45～	ミサ
	15:30～	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係（担当 松田浩一 神父）

FAX 052 [671] 1825. (お問合せ) TEL 052 [671] 1003

聖書深読センターのご案内

1. 聖書深読黙想会

① 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。（p.1）

② 宇治・・・宇治 " (p.4)

③ 名古屋

第一回	4/17（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父	了
第二回	5/22（土）～5/23	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父	了
第三回	10/2（土）～10/3	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父	
第四回	11/6（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父	

* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 原則として、定員21名とし、申込はファックスまたは葉書でお願いします。

* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全工程を行なう一泊二日コースがあります。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたで構いません。

連絡先：〒465-0058 愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

Tel/Fax：052-701-3685

④ 横浜

◎ 1泊2日 コース

月 日	場 所	指導司祭
3月16日（火）～17日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	大瀬高司師
5月19日（水）～20日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	大瀬高司師
9月15日（水）～16日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	中川博道師
11月9日（火）～10日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	奥村一郎師

◎ 1日 コース

1月22日（木）	ザビエル・センター（横浜・滝之上）	九里 彰師
7月14日（水）	"	大瀬高司師

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045(621)5838

お知らせ

聖書深読黙想会にまだ一度も参加された事のない方のために、奥村神父様の考案された聖書深読法の楽しさ、そして喜びを体験していただく日を設けました。奮ってご参加ください。

日時：6月30日（水）10時～3時まで

場所：横浜ザビエル・センター（中区・滝之上）

会費：1500円（昼食代を含む）

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045（621）5838

2. 通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

（1）朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4月、7月、10月、1月に入れる）

継続 15,950円

講師：丸里 彰師（奇数月） 新井延和（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

（2）有光 信子

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に記号、全、および思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解読はない。

費用：1回300円 年10回3千円

送り先：〒663-8033・西宮市高木東町31-20-505

有光 信子 ・ TEL & FAX：0798-67-8132

3. ミニ深読

グループで、2, 3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または、Sr. ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr. ベアトリスまでお願いします。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問合せ下さい。

所長 : 奥村一郎 神父
事務局長 : 新井延和 神父
連絡先 : シスター ベアトリス

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

tel: 0774-32-7016

fax: 0774-38-2543

e-mail: carmis@mbx.kyoto-inet.or.jp

2004年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場所: カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

ご指導

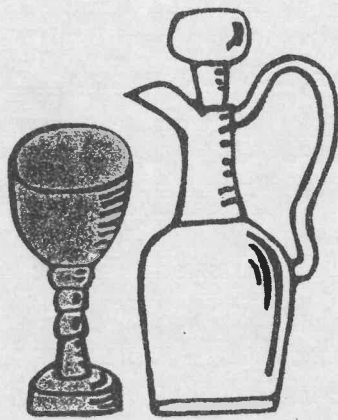
日程: 6/17 (木) 夕食 ~ 6/20 (日)	チブリアノ神父様了
9/7 (火) 夕食 ~ 9/10 (金)	アロイジオ "
10/14 (木) 夕食 ~ 10/17 (日)	中川 博道 "
11/9 (火) 夕食 ~ 11/12 (金)	九里 彰 "

☆ 空きがある場合には、一般の方でも参加できます。

☆ お申し込み、お問い合わせは下記まで。

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)

心の泉



光の神秘（第5の神秘）

イエス、最後の晩餐で、聖体の秘跡を制定する。

チプリアノ・ボンタッキョ神父

“聖体においてキリストは、パンと葡萄酒のしるしによって、ご自分のからだを食物として与えられます。こうして、キリストは人類に対するご自分の愛を“このうえなく”証しされるのです（ヨハネ 13,1）。キリストは人類の救いのために、ご自身を生贄としてお捧げになったからです”（ヨハネ・パウロ二世 おとめマリアのロザリオ、21）。

1) このうえない愛の証し。

ご聖体は人類に対するキリストの愛をこのうえなく証しする秘跡です。キリストはこの秘跡を定めるのにご受難が始まるその晩、しかも“過ぎ越しの食事”の時を選ばれました。この時の来ることをどんなに望んでおられたかを、キリストご自身のお言葉から伺うことができます。“苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過ぎ越しの食事をしたいと、わたしは切に願っていた”（ルカ22,14）。この世を去る前に、ご受難の時に捧げられたご自分のからだを、食物としてわたしたちに残すことを切に望んでおられたのです。“皆これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである”。また、“皆これを受けて飲みなさい。これはわたしの血の杯、あなたがたと多く（すべての意味）の人のために流されて、罪の許しとなる、新しい永遠の契約である”。ミサ毎に司祭がこの言葉を繰り返すことによって、パンは十字架の上に渡されたキリストのからだ、葡萄酒は十字架の上に流されたキリストの血となります。しかもその血は“罪の許しとなる血、（また）新しい永遠の契約の血”です。この言葉をより深く理解するために出エジプト記の12章 1節から14節と、同じく出エジプト記24章 4節から 8節まで読むことをお勧めします。

2) 永遠の命のパン

イエスは5000人の大群衆に食べ物を与えた後に不思議な話しをされました（ヨハネ 6,1-59 参照）。そのパンを食べた人々に“父が天から与える、何時までもなくなる、永遠の命に至る食べ物”のお話です。その時、人々は“主よ、そのパンをいつも私たちにください”（6,34）と願ったところ、イエスはかれらにとって躓きとなった不思議な言葉を語られました。“わたしは天から下ってきた命のパンである”（35）。“わたしが与えるパンは世を生かすためのわたしの肉である”（51）“わたしの肉を食べ、わ

たしの血を飲む者は永遠の命を得、わたしはその人を終りの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、私の血はまことの飲み物だからである” (54-55)。確かに不思議な言葉です。聞いていた人々にはそれが理解できず、“弟子たちの多くが離れ去った”と書いてあります(65)。

ご聖体においてキリストはパンと葡萄酒の形色のもとに現存してわたしたちに永遠の命を与える食物となってくださいました。ご聖体をいただくことによってキリストと共に一つの体、一つの血となるからキリストの復活の恵みに預かるものになるということです。

3)一致の秘跡

神によって呼び集められたわたしたちは一つの家族(教会)となり、聖体祭儀が行われる度毎にこの家族は一つの食卓を囲み一つのパン(ご聖体)をいただきます。尚、皆でいただくご聖体はこの家族の一致を示すと同時に、一致への条件も示唆してくれます。つぶされた小麦を水でこねるとパンとなり、つぶされた葡萄は発酵すると葡萄酒となります。そのように各々の自我、傲慢さ、エゴイスモがつぶされていかなければ聖霊によって一つに結びあわせられることができません。それに、一致へのもう一つの条件をイエスは最後の晩餐の時に示してくださいました。それは弟子たちの足を洗うことによってでした。彼等の足を洗った後に、イエスは弟子たちに互いに足を洗いあうように諭されました。それは許しあうこと、またお互いに僕となり、奉仕しあうことを意味します。

4)教会に残された尊い生贄

聖体を制定された後にイエスは“わたしを記念して、これを行いなさい”と命じられました。この命令に従って、教会はミサ聖祭において、キリストが最後の晩餐の時になされたことを繰返します。キリストを代行する司祭がパンと葡萄酒の上に唱える言葉によって、そのパンと葡萄酒はそれぞれキリストの“渡された”からだと“流された”血となります。そして教会はキリストと共に、またキリストを通して、その尊い生贄を捧げます。つまり、ミサ聖祭において、キリストは、十字架の上になされたことを教会を通して世の終りまで秘跡的に繰返されます。同時に人間のあらゆる苦しみ、願い、生活そのものをご自分と一緒に捧げてくださいます。

年間第14主日

「収穫は多いが、働き手が少ない」

(ルカ10：1～9)

今日の福音の中で、イエスはぶどう畑で働く助け手をもっと必要だと仰っています。これは司祭職と修道生活への優しい招きであるだけでありません。本当のキリスト者になるようにという呼びかけなのです。イエスは天国への長い道のりを導く案内人が欲しいのです。この道のりを歩んでいる信徒は司祭や修道者と同じくよい導き手でありうるし、実際そうなのです。キリストの愛に満ちた御心から発するこの呼びかけは、司祭・修道者同様に信徒に向けられています。今まで私はどれだけ人々を天国に導くためにキリストの手助けをしたのでしょうか。神を愛さないなら誰も天国に辿りつけません。また隣人を愛さないなら誰も神を愛することができません。本当のキリスト者ならキリストの弟子です。そして弟子の働きをするよう呼びかけられています。

実のところ、神は各人の自由意志に従って選んだ神の国の民に、強いられてする労働を望んでおられません。また彼らが力強い主人を恐れて福音を生き、奴隷的従順で天国を勝ち得ることも望んでおられません。神はすべての人に天国に入ってもらいたいと願い、彼らが完全な自由意志で天国に至る道を選び、天国を享受することを望んでおられるのです。神は弱い人を助け、方向を間違わないように旅人に警告するために、すぐれた案内者である人たちを道の途中に置いてあります。キリスト者は他のキリスト者を主キリストと其人自身へと導くはずで、本当のキリスト者の力と栄光と名誉は永遠の生命をもつことですが、弱い人間である私たちはこのことをいつも忘れてしまいます。

他国から来ている私たち宣教師は、日本での宣教の始めにひどく落ち込んでしまいます。言語がメッセージを伝えるときの最大の障害です。一生懸命に始めますが、その実りを見ることができず、落胆だけが返って来るのです。しかし今日の福音は物事を積極的に見る助けになります。今日の福音のイエスの言葉「収穫は多いが働き手が少ない」は、実際そのとおりです。私たち働き手は生き方を通して証ししなければなりません。「すること」よりも「であること」がより大切です。信仰と神の国のために生きそして死に、平和と愛と喜びをすべての人々に上げた聖人と宣教師のよい模範がたくさんあります。私たちは時々キリスト教的な生活が当たり前と思われ、しかし必要なときが来れば信仰を守るために立ち上がるができるはずで、

(Beatrice)

年間第15主日

善いサマリア人のたとえ

(ルカ10:25~37)

善いサマリア人のたとえは、たとえであって、現実にあった出来事ではありませんが、現実にかような人がいたらどういう人であったか考えてみるのも面白いでしょう。当時、現代のような観光旅行は庶民にとってありえないことでした。サマリア人である主人公が、ユダヤの首都の近くを旅していました。多分自宅から数十キロ離れた場所です。ロバに乗っての旅ですから決して短い距離ではありません。ロバに乗って旅するのは普通でした。おそらく、商売か何かの用事でエルサレムを訪れる必要があったのでしょう。旅と商売に必要なお金だけでなく、念のために少し余分にお金を持っていたでしょう。

彼は強盗に襲われて半死半生の人を見て、哀れに思い、傷口に油とぶどう酒を注ぎ、ロバに乗せ宿屋に連れて行き、介抱しました。翌朝、2デナリを宿屋の主人に渡し、介抱を頼み、費用がもっとかかったら帰りに払うと約束しました。その宿屋はその日泊まる予定の場所よりずっと手前にあったかもしれません。だとしたら彼は、倒れていた人を助けるために旅の予定を遅らせたこととなります。2デナリ(あるいはそれ以上)予定外の出費をしたので、帰りに家族の土産を買うことができなかつたかもしれません。予定より少し遅れて土産も買わずに帰った夫に、妻は疑いの目を向けるかもしれません。しかしもしそんなことがあっても、彼は何も悪びれず、また自慢もせず、見知らぬ人を助けたので時間とお金がかかったことを淡々と話すでしょう。

善いサマリア人がしたことは想像以上に難しいものです。私にはこういう体験があります。そのころある地方都市で県の出先に勤めていました。いつも定刻の5分前に着くように出勤していました。ところがその朝は少し寝坊してしまい、あわてて役所に向かって歩いていました。この調子だと定刻の2分前に着けそうだと考えていたとき、年取った婦人が私を呼び止め、市役所にはどう行くのかと尋ねました。私はとっさに頭の中で計算して、道を教えるのなら1分ですむから教えても遅刻しないだろうと考え、立ち止まり、行きかたを教えてあげました。するとなんとということか、そのおばあさんは一緒に行ってくれないかと言いました。市役所はそんなに遠くないもののそんなことをしては遅刻してしまいます。私は断ってまた歩き始めました。役所に着くとすぐ朝礼が始まりました。朝礼では重要な事務連絡もあるので、出ないと困ることになります。やれやれ間に合ったとほっとしたもの、善きサマリア人になれなかつたという後悔の念が起きてきました。善きサマリア人になるとは、その日の私にとって朝礼に遅刻することだったので。そして同僚から文句を言われても言い訳しないことだったので。「あなたも行って同じようにしなさい」(10:37)との主の命令は簡単でないと実感したものです。

(新井)

年間第16主日

「イエスのみ前にいることはたくさんのことを行なうことより重要である」

(ルカ10:38~42)

ムンバイ高校のPTAの会合に一人の父親がやってきました。彼の息子を教えている教師の一人と話しているうちに、彼は突然わっと泣き出してしまいました。平静を取り戻してから、取り乱したことを謝り、「息子はもう私と一緒に暮らしていません。しかし依然として息子を愛しておりますし、学校でどうやっているか知りたいのです。」と言いました。そして父親は、その日の午後妻と4人の子供がどのように出て行ったかを語るのです。彼は建築業を営んでおり、日に16時間働くこともありました。当然のことながら、家族の世話はほとんどしませんでした。家族は徐々に彼から離れていきました。それから父親は悲しいことを言いました。「私は妻と子供たちに、買ってやりたいと夢見ていたものを全部買ったのです。しかし仕事にかかりきりになるうちに、家族が最も必要としているものを忘れてしまいました。すなわち、夜は家族と一緒にいて愛と支えを与える父親です。」

この話は行なっていることにかかりきりになりすぎると、なぜそれをしているのかを忘れてしまうことを教えてくれています。生活にかかりきりになると生活の目的を忘れてしまいます。お金で買うことができるものを得ようと熱中していると、お金で買えないものについては忘れてしまいます。

これが今日の福音の中でマルタのしたことでした。自分が親切で本当の女主人であることを示そうと張り切りすぎて、御馳走を用意することに全精力を傾けました。神の知恵に満ちた主の言葉に耳を傾ける時間はありません。イエスのために料理するのにかかりきりで、イエスがなぜ彼らのところに来たかを忘れていました。イエスは無料の食事をするために来たのではなく、友人たちと一緒に時を過ごすために来たのです。

マルタのように多くの「善良な」キリスト者がたくさんの上的関心事を心配し、心惑わせています。この関心事は必要なものです。人は日毎の糧を稼がなければなりません。主婦は料理し、洗濯し、家族のために働かなければなりません。これは神御自身が私たちに望んでおられることです。会社であれ、店であれ、家庭であれ私たちの毎日の務めは、神が私たちに与えになった心と体の恵みに対する感謝であり、神をたたえる祈りなのです。一日のうち、時々数分間を神とその善良さを考えるのに用いれば、日々の生活を生き生きと積極的に生きるのを助けるでしょう。生活にあまりにもかかりきりになり、祈りの習慣をなくしてしまったらどうなるでしょうか。イエスの足元にどのように静かに座っているかを忘れてしまったらどうなるでしょうか。

(Beatrice)

年間第17主日

「求めなさい。そうすれば与えられる」

(ルカ11:9)

ルカ福音書の11章5節から13節には祈るときの心構えが述べられています。友人がある人のところに泊まることになったが、何も出すものがないので近所の友人のところに行ってパンを貸して欲しいと頼むとします。そしてもう夜遅くなっていたので頼まれた人が断るとします。しかししつように頼めば起きてきて必要なものは何でも与えるだろうと主は仰います。そして求めよ、そうすれば与えられると言われます。

パンを頼まれた人が、もう夜も更けたので戸を閉め、子供たちと寝床に入ってしまったのにもかかわらず、起きてきて友人にパンを与えるのはなぜでしょうか。同じようなたとえは18章にもあります。やもめが裁判官のところに来て「相手を裁いて私を守ってください」と言い続けるなら、神を畏れず、人を人とも思わない裁判官であっても、やもめの訴えがうるさくてかなわないので、裁判をしてやることになるというたとえです。この両者に共通しているのは要求が正当なものであるということです。ユダヤの村では友人同士助け合うのが当然でした。たとえ夜少し遅くなっていたとしても、困っていてしつこく願いつづける友人を無視することは、不名誉を招くことになりかねません。やもめの訴えも同じことで、正当なやもめの訴えを無視し続けることは傲慢な裁判官にも難しいことなのです。しかしもし訴え求める人がしつように願いつづけないなら、友人も裁判官も願いを聞き入れはしないでしょう。しつこさが大事なのです。

今日の第1朗読にもしつこく求めた人が出てきます。アブラハムです。ソドムを滅ぼそうとする神に対して、アブラハムは「正しい者と悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。正しい者がもし50人いても彼らのために町をお赦しにならないのですか」と問い、「50人いれば町全部を赦す」という神の言葉を引き出します。アブラハムは、「50人に5人足りなくても赦さないのですか」と尋ね、「45人いれば滅ぼさない」との答えを得ます。同様にして、40人ならばどうですか、30人なら、20人ならと神に問いつづけ、ついに10人いればソドムを滅ぼさないという確言を得ます。

彼の執拗なソドムのためにとりなしは、結局は10人の義人が見つけれなくて無駄に終わるものの、祈りの本質をよく現しています。アブラハムの願いはきわめて正当なものであり、神御自身の願いであるといってもよいと思います。神は本心ではどの町も滅ぼしたくないのです。赦したいのです。ソドムの罪が非常に重いと訴える叫びが大きくても、できれば赦したいのです。50人の義人、いや10人の義人が町にいるだけで赦したいのです。アブラハムは神の願いを願っているのです。

人は正当な願いでなければ本当のところ、全身全霊を挙げてしつように求め続けることが困難なのではないでしょうか。また信仰者であれば、しつこく神に願いつづける時、だんだんに自分の個人的な欲求でなく、神の御旨の成就を願うようになるものです。そうなってくる時、求めるものがすべて与えられるようになります。

(新井)

断 想 (193)

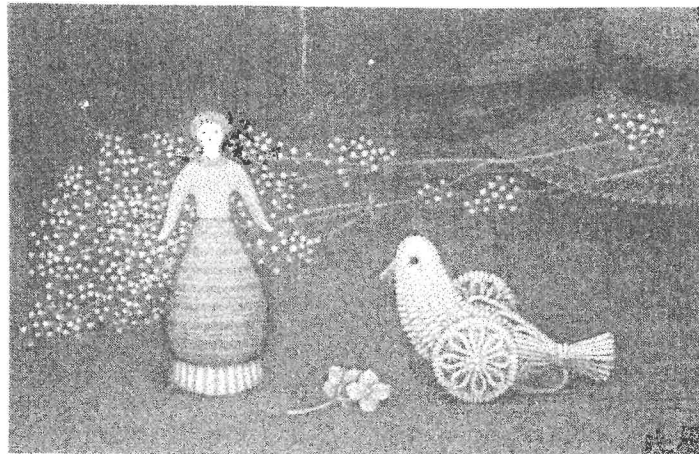
「愛」と「愛する」

愛という言葉よりも 愛の行いが欲しい
まことの愛に目覚めるために

「愛」と「愛する」
キリスト教では「愛の宗教」といわれる
ところで 考えさせられることがある
福音書には「愛」という名詞がきわめて少ない
マルコ福音書では「ゼロ」
マタイは一回 ルカでは二回
愛の福音書といわれるヨハネでも六回だけ
それにたいして
「愛する」という動詞は
マルコ 七回 マタイ 十三回
ルカ 十五回 ヨハネ 四十二回
「愛の行い」が大切だということがわかる

愛させてください 主イエズス
あまりにも愛せない みじめなわたしを

奥村 一郎



ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(68)

赦すことによって自分の心を癒すこと

赦されることを望んでいない人々を、私たちはどのようにして赦すことができるのでしょうか。私たちの最も深い欲求は、私たちが与える赦しを受け取られることです。赦しを与え、それを受け取るという相互のやり取りが、平和と調和を生み出していくのです。けれども、赦しを与える条件を受け取られることであるとすれば、私たちはめったに赦そうとはしないでしょう。他者を赦すことは、何よりもまず心の中の動きです。その行為は、怒りや苦さや復讐しようとする欲求を私たちの心から取り除き、人間的尊厳を取り戻すよう私たちに助けてくれるのです。私たちは、赦そうとしている人々に、私たちの赦しを受け入れるよう強いることはできません。彼らにしてもそうすることはできないかもしれませんし、そのつもりもないかもしれません。私たちが傷つけたということを、彼らは知りも感じてもないかもしれないからです。

私たちが現実に変えることのできる唯一の人々とは、私たち自身なのです。他者を赦すということは、何よりもまず自分自身の心を癒すことです。

(0127)

赦しという未完の仕事

「この世を去る」時が来た時でさえ、私たちが生にしがみつかせるのは、何でしょうか。私たちのやり残した未完の仕事でしょうか。時々、私たちは生にしがみつきます。それは、私たちが、「私はあなたを赦します。あなたも私を赦してください」と言うことがまだできないからです。私たちが傷つけた人々を赦し、私たちが傷つけた人々に赦しを願った時、新たな自由が生まれてくるのです。それは、この世を去る自由です。

イエスは死につつある時、彼を十字架に釘づけた人々のために祈りました。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 23 : 34)。その祈りは、彼に次のように言う自由を与えたのです。「父よ、あなたの手に私の霊をゆだねます」(ルカ 23 : 46)。

(0519)

九里 彰訳

カトリック ☆★ アラカルト ★☆ (11)

嶋崎 浩樹 (カルメル会)

《アレルヤ／ホザンナ／アーメン》

今回は、よく質問のあるキリスト教用語についてみてみたいと思います。

①アレルヤ (halleluyah : ヘブライ語)

元来ヘブライ語では、ヤハ (yah=神のこと) を「誉めたたえよ」の意味です。イスラエルでは、神を礼拝する場で、賛美の言葉として使用されていました。

②ホザンナ (hosi ah na : ヘブライ語)

キリストのエルサレム入城の時に、それを迎えた群衆があげた歓呼の言葉です。ヘブライ語の hosi ah na は、「(どうか主よ、) わたしたちに救いを」の意味で、これがギリシャ語に訳され、現在のミサの感謝の賛歌の中に取り入れられています。

③アーメン (amen : ヘブライ語)

アーメンは、「たしかに、本当に」という意味の副詞です。

祈りの最後に「アーメン」と唱えますが、それは、その祈りは、「本当にその通りです」というわたしたちの心からの同意を表すものです。ですから、決められた時に「アーメン」と唱えないのは、その祈りについて、「わたしは同意していません」ということになります。後ほど触れることになるとと思いますが、聖体拝領の時、「キリストのからだ」と司祭が唱えて、信徒が「アーメン」と答えるのは、「そのパンが、本当にキリストのからだであると信じています」と言うことです。ですから、アーメンと答えないというのは、ご聖体を信じていないということにもなります。

また、福音書の中で、しばしば「アーメン」という言葉が使われています。これは、訳された時には出てきませんので、よくわからないかもしれません。福音書では、「はっきり言っておく」とか「まことに言う」とか言う言葉に訳されています。これは、これから話すことは、「とても大切なこと」、「真理だ」というようなとても重要なことが述べられる時に使われています。

(参考文献)

「岩波 キリスト教辞典」岩波書店 2002年6月初版

泉

それはもう、今から40年も前の話になるでしょうか。

シスター達の夏休みの憩いの場として、旧軽井沢の一角に、小さな山の家がありました。私も仲間のシスター達もまだ若かったし、都会の汚れを清めてくれるような、山のすがすがしさに魅了されて、腰に“おむすび”をぶら下げながら、毎日のように山歩きをしたものです。そのとき、ある深山に、こんこんと湧く「湧き水」に出会いました。それこそきれいな清水が、一点の濁りもなく、一時のとどまりも知らず、同じリズムで川面に溢れ出ているのです。一掬い、手のひらに掬って飲むと、その冷たさと美味しさで、心の深みまで清められてしまいそう……

話は変わって、今度はデパートの地下食料品売り場です。暑さで当然冷房はしてあるものの、大勢の買い物客の熱気で、むせかえってしまいそうです。そんな時、大きな金魚鉢とでもいえそうな、ジュースのガラスの水槽があるのですが、これも一見、コンコンと湧いているように見えます。思わず飲みたくなる！！ 但し1杯〇〇円です。しかも電源が切れれば動きは止まるし、冷えはさめていきます。「ああ、味気ない」とは思っても、確かに一時の癒しにはなるでしょう。

では神の愛とは？ つきあげては溢れ、つきあげては溢れ、限界というものがない。足りなくなったから一寸待って！ということもない。あの場所にゆかないと頂けないというものでもない。自然の美しい深山に？ デパートのジュース売り場に？ とんでもない。 際限のない拡がり。止むことのない憩い。暖かさ。そして品切れがない。しかもそこに次々と生れるエネルギーがあり、動きがあるのです！！「愛の永遠」あるいは「永遠は愛」とでも言いましょうか。“お前は私の子。今日私はお前を生んだ” Ps、2、“渴いている人は、誰でも私のところに来て飲みなさい。私を信じる者は、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。” Jo.7, 37-38

神の愛は一時期、一箇所、特定の人に限られたものでなく、尽きることのない泉のように、生れると次が生まれ、また次が…というように、寸断されることのない連続なのです。

これを永遠の愛、愛そのもの、神 というのではないのでしょうか。そしてその中に私たちは抱擁されているのです。

S r. 熊田 照子 (お告げのフランシスコ姉妹会)

PREGHIERA

O Dio degli uomini,
che ci dai l'Amore
e converti i malvagi
come creasti il sole dell'universo,
che ci dà luce
e illumina la luna,
concedi alla mia amica
di continuare a riflettere
quest'amicizia;
in lei vedrò splendere
il mio Signore.

いのり

ああ、人々の神よ、
私たちに愛を与え
そして悪しきものを(良きものに)変える
私たちに光を与え
月を輝かす、
宇宙の太陽を創られたように、
私の友に
この友情を
熟考し続けさせて下さい;
彼女の中に
私の主が輝くのを見るでしょう。

Marco Maffezzoli (マルコ・マッフエッツオーリ ; 浅野菜生子訳)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

5. 福者ヌノ・アルヴァレス・ペレイラ (1360-1431.)

ヌノ・アルヴァレス・ペレイラは 1360 年に生まれ、長年の間、軍隊で活躍し、ポルトガル独立を勝ち取った。ポルトガルの保安武官長として、陸軍の総指揮をとることとなった彼は、圧倒的に人数の少なかった自らの軍隊がファティマで勝利を得、神の大いなる御力を体験した。それは聖母の被昇天の前晩のことであった。彼は、以前からポルトガルの元后であった聖母に祈りを捧げていたのである。妻の死後、自ら創立したリスボンのカルメル会修道院に 1423 年に修道士として入会、聖マリアのヌノという修道名を受けた。1431 年に亡くなるまで、その修道院で生活し、祈りと、償いの業の実行、神の御母に対する子どもとしての信心のゆえに知られていた。



戦闘の後、ファティマで祈る福者ヌノ

祈り

カルメル山の母よ、
私はあなたの聖なるスカプラリオに接吻し、
この尊いたまものをいただいたことをあなたに感謝します。
私をいつも助け導いてください。
あなたの御取り次ぎに、信頼をおきます。
愛する聖母よ、
あなたの御保護によりすぎる者が、
助けを受けないままに終わったことは、
かつて一度もありませんでした。



* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

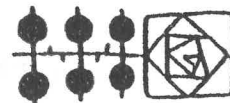
(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(沢田裕子訳・編)

いのちの言葉



いつもイエスをみつめて



^{すき}
鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、
神の国にふさわしくない。 (ルカ9・62)

イエスは、ご自分の使命を成就するため、エルサレムへの重要な旅に出る決意をされました。(＊1) 彼に従おうとする人々もいましたが、イエスは、ご自分と共に歩むことは、真剣な選択を伴うものであることを告げられます。それは、困難を伴う歩みであり、最後まで御父の望みを果たそうと心に決められたイエスと同じ勇氣・決意が求められるものでした。

イエスは、人が最初に熱意を失い、やる気をなくしてしまうことを、ご存知でした。種まく人のたとえ話の中で、語られた通りです。石地に落ちた種とは、「み言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないのでしばらくは信じて、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのことである」と。

(＊2) イエスは人々がご自分に従う時、「これはできるが、あれはできない」という中途半端な態度ではなく、徹底的な姿勢を持つことを望んでおられます。私たちは一度、神とその御国のために生きる決心をしたのなら、後にしてきたものを取りに帰ったり、以前の生活に戻ったり、再び利己主義に陥ることはできないでしょう。

鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、
神の国にふさわしくない。

私たちは皆、イエスに従うよう招かれています。イエスは私たちを呼ばれる時、一つの新しい世界を示してくださいますが、それは私たちの今までの生活を後にするだけの価値があるものです。しかし時折、私たちは前の生活に戻りたくなったり、福音的ではない世の考え方に、知らず知らず影響されたりすることがあります。

こうして困難が生じてきます。私たちは、イエスを愛したい一方で、自分の執着や弱さ、生ぬるさはそのままにしておこうとするからです。またイエスに従おうとしながらも、何度も後を振り向く誘惑にかられ、来た道を後戻りしたり、一步步んでは二歩下がったりします。

今月の「いのちの言葉」は、言行一致と、根気強く忠実に生き続けることの大切さを私たちに告げています。私たちが福音を実践しながら、新たなすばらしい経験をしたのなら、優柔不断や、霊的怠慢、妥協、寛大になれない中途半端な生き方が、どれほど福音に相反するものか、わかるでしょう。ですから、イエスに従う決心をし、彼が私たちに開いてくださるすばらしい世界に入っていきます。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」(＊3)とイエスは約束されました。

**鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、
神の国にふさわしくない。**

では、後を顧みる誘惑に負けないためには、どうすればいいでしょうか。

第一に、古い自分のエゴが出てくる時、それに耳を貸さないことです。熱心に仕事や勉強をしたり、よく祈ったり、重苦しい困難な状況を愛の内に受け入れのが嫌にまる時、また誰かの悪口を言いたくなったり、相手に対して忍耐を失ったり、仕返しをしたくなるような時がそうです。こうした誘惑に対しては、一日に十回、二十回でも、「いいえ」と拒否しなければなりません。でもこれで充分というわけではなく、「いいえ」と拒否するだけでは、わずかの前進しか期待できません。何よりも必要なのは、神のお望み、また兄弟姉妹の望みに対して、私たちが「はい」とこたえることです。このように生きる時、私たちは驚くような体験をするでしょう。私も自分の経験を思い出します。

1944年5月13日、北イタリアの町トレントにいた私は、爆撃で家を破壊され、家族と共に近くの森に避難しなければなりません。愛する家族と一緒に疎開できないことがわかっていた私は、その時、涙が流れて仕方がありませんでした。トレントの町には、すでにフォコラーレの仲間が生まれていたのです。私は彼女たちを見捨てて、町を離れることができなかつたからです。しかし、神様への愛は、このような状況にも勝つことができましたでしょうか。当時、私だけが家族を経済的に支えていたにもかかわらず、彼ら共に行かないでよかったのでしょうか。

父は私の決心を祝福してくれ、私は町に残りました。しばらくしてからですが、私は、家族が町を離れた時にさほど悲しんでいなかったことや、後でよい疎開先を見つけたことを知りました。廃墟と化した町に戻った私は、仲間を探し始めましたが、幸いにも、皆無事でした。ある人が私たちに小さな家を提供してくれ、やがて、そこは、最初のフォコラーレとなりました。

**鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、
神の国にふさわしくない。**

ではイエスをしっかりと見つめながら、目指すゴールに向かって、常に前進するよう(*4)努めましょう。イエスへの私たちの愛が大きくなればなるほど、また、イエスが生み出された新たな世界のすばらしさを経験すればするほど、私たちが後にしてきたものは、魅力を失っていくでしょう。

毎朝、新しい一日を始めるにあたり、こう自分に言ってみましょう。「今日は、昨日よりも、もっとよく生きよう！」と。その日、神と兄弟にできた愛の行いを、何かを使って数えてみることも、助けになるでしょう。こうして、夜には、私たちの心は、幸せで満たされるでしょう。

キャラ・ルービック

*1 ルカ 9・51

*2 ルカ8・13

*3 マタイ10・22

*4 ヘブライ人への手紙12・1参照

*フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail focolare@sa.uno.ne.jp

真まことの百合

蛭田 幼一

庭の一隅で、鉄砲百合が咲いた。山百合もまた、咲いては萎んでいく。真の百合マリア、僕はあなたの隠された生涯を想う。どうかあなたの生涯の、清らかな、百合のように馥郁たる神秘を、僕にも悟らせてください。あなたに倣うために。僕にさえ気づかれずに。僕は泥沼に足を取られている。あなたのように咲かなければ、僕は朽ち果ててしまう。

よごれ

皆さんは、メラミン・スポンジというものをご存知かと思います。水を含ませて軽くこするだけで、お鍋などに付いた取れにくい汚れを、見る見るうちに落として綺麗にピカピカにしてくれる、あの真っ白なスポンジのことです。

ある友達が、メラミン・スポンジの構造について説明してくれました。話によれば、お鍋などには細かい傷がたくさんあって、その傷の中に入り込んでこびりついた汚れは、表面からゴシゴシこすっても落ちないのだそうです。ところが、このメラミン・スポンジは、とても柔らかく細かい繊維で出来ているために、小さな傷の中にまで入って汚れをかき出してくれるそうです。こする力によってではなく、メラミンの柔らかさと繊細さが、汚れをかきだしてくれるというのです。

わたしには、自分自身やこの世界が、どうしようもなく荒んで汚れているように感じる場合があります。そんな時、思わず、否定したり、嫌悪感を持ったことがあります。でも、メラミン・スポンジについての説明を通して気づいたのです。もしかして、自分やこの世界を、汚れていると感じる時、そこには同時に、無数の傷や痛みがあるのかもしれないと。その傷の中に入り込んでこびりついている汚れを、堅いものでゴシゴシこするかのようになり、自分やこの世を責めているだけでは、汚れは落ちないのでしょう。新たに傷を作ってしまうかもしれません。そして新しい傷に、また新しい汚れが入り込みます。自分もこの世界も、ますます汚れて荒んでしまうかもしれません。

自分やこの世の、傷や痛みを、メラミンのような繊細な心で気づいて、そうっと優しく触れて、傷の中に入り込んで、くっついている汚れを落とせたらどんなに素敵でしょう。

『このメラミン・スポンジって、イエス様みたいだなあ・・・』

人を愛し、この世を愛し、傷や痛みの深いところにまで優しく入り込み、癒して下さり、最後には、ボロボロになって捨てられた、私達の主、友の中の友、イエス様を思います。

丸山知佳子

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.313 (2004年夏号)

「今日の靈性」

聖体＝キリストの過越の神秘(60) …高橋重幸

「友」なる神との語らい ―イエスの聖テレジアの祈りの定義 …九里 彰

イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(11) …P・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(5) …伊従信子

エディット・シュタインの生涯― …十字架のヨハンナ

三位一体のエリザベット(6) …伊従信子

仏教者の作品の中に見られるキリスト教(1) …谷口正子

出会い―修道生活きのうきょう―(7) …奥村一郎

雑誌「カルメル」2004年特集号

「本質的なことからの再出発」

福音の本質的なこと ―現代日本の文脈の中で …中川博通

現代日本におけるキリスト者の本質とは何か

―キリストの弟子として生きる …松田浩一

共同体の本質 ―過ぎ行く時の試練の中で残ってゆくもの …大瀬高司

奉獻生活の本質 ―愛の証しとしての奉獻生活 …九里 彰

カルメルの本質 ―観想と神 …新井延和

*年5冊(春夏秋冬号+特集号)頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：TEL03(5706)8356迄。)

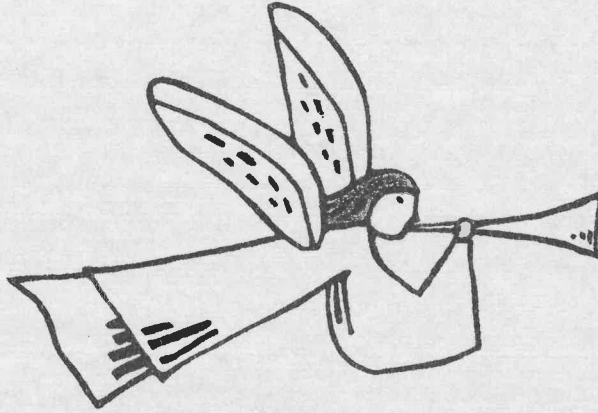
「カリットへの旅 ―カルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、
2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「愛するための自由 ―十字架の聖ヨハネ入門―」

N・カミン著。山口女子カルメル会訳、2000年、ドン・ボスコ社、定価(本
体1500円+税)。

諸々の企画案内



ノートルダム・ド・ヴィ

風の家

スズランハウス

瞑想の家

三位一体の聖体宣教女会

真命山霊性交流センター

マリアの御心会

心のいほり、内観瞑想センター

リーゼンフバー講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

聖心会黙想の家

京都教区聖書委員会（聖書深読）

諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247
Fax(03)3594-2254

* 祈りの集い・いのちの泉へ

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

日時：10月23日(土)・11月27日(土)・12月18日(土)

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

時間：午後2時から(プログラム、修了時間は日によって異なりますので事前にお問い合わせ下さい)

問い合わせ・申し込み

T e l (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 4 7

(電話は夕方6時～夜9の間をお願いします)

F a x (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 5 4

(F a x 送信は何時でも結構です) 又は郵便で

風 の 家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

* 新住所：〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

ズランハウス : 責任者・井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会)

* 詳細は電話で問い合わせして下さい。

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年

「聖書で祈る」： 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2004, 2月21日（土）5:30pm～22（日）4:00pm 了
6月26日（土）5:30pm～27（日）4:00pm 了
11月27日（土）" 28（日）"
2005, 2月26日（土）" 27（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道

対象：男・女青年信徒

2004, 2月8日（日）10:00am～4:00pm 了
6月5日（土）10:00am～4:00pm 了
11月20日（日）10.00am～4.00pm
2005, 2月8日（土）" "

黙想会：

*対象：一般信徒（お弁当持参）

2004, 2月9日（月）10:00am～4:00pm 了
6月4日（金）10:00am～4:00pm
11月19日（土）10:00am～4:00pm
2005, 2月4日（金）10:00am～4:00pm

年の黙想会： 指導：瀬戸勝介 師（イエズス会） *対象、修道女

2004, 8月16日（月）5:30pm～8月25日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～200Pm)

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 6 - 2
J R 信濃町駅下車徒歩 2 分

* 問い合わせ・申し込み：TEL. 03-3351-0297 : FAX. 03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2004年度	テーマ	指導者
6/27 (日)	霊操による祈り一日 (上石神委井黙想の家)	瀬本正之師
7/25 (日)	信徒の宣教	竹内燐太郎師
8/6 (日)	キリストの生き方とわたしの生き方 (長野県富士見高原黙想の家)	栄 隆一師
9/26 (日)	一致・交わり・共同体	松井紀直師
10/24 (日)	マリアの7つのことば	ヌエル・エルナンデス師
11/28 (日)	霊の識別	ティエリ・j・ロボアム師
12/19 (日)	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
2005年度		
1/23 (日)	聖体に現存するキリスト	森 一弘司教
2/20 (日)	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
3/20 (日)	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

『心のいほり』

『内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

* TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

* 活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

* 希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

* 2004.

- 6/2 (水) 2時~6/8 (火) 2時まで横浜・戸塚
- 6/20 (日) 2時~6/26 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布 } 了
- 7/5 (月) 2時~7/11 (日) 2時まで横浜・戸塚
- 8/1 (日) 2時~8/7 (土) 2時まで京都・竜安寺
- 8/16 (月) 2時~8/22 (日) 2時まで兵庫・宝塚売布
- 9/2 (木) 2時~9/8 (水) 2時まで横浜・戸塚
- 9/19 (日) 2時~9/25 (土) 2時まで京都・竜安寺
- 10/7 (木) 2時~10/13 (水) 2時まで横浜・戸塚
- 10/17 (日) 2時~10/23 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2004～2005年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各 回 の テ ー マ

- 7/ 2 イエスの人間関係ー罪人と弟子と共に
- 7/ 9 イエスは誰かーイエスの自己理解
- 7/16 最後の晩餐ー自分を与えるイエス
- 7/23 イエスの受難ーその史実と意図
- 7/24 ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
- 7/30 イエスの死ーその救済的意味
- 8/ 6、13 ○休み
- 8/20 イエスの復活ー今に生きるイエス
- 8/22-29 ●通う霊操（18-21時）
- 8/27 聖書のイエス像ーヨハネの見たイエスー
- 9/ 3 聖霊ー神の愛に導かれる
- 9/10 祈りの本質とさまざまな祈り方ー神と関わる
- 9/17 洗礼と堅信ーイエスに結ばれて生きる
- 9/18-20 ●黙想会
- 9/24 教会の成立と意味ーイエスを中心に集う
- 10/ 1 人間としてのイエスー新しい人間像の基礎付け
- 10/ 8 御子としてのイエスーイエスの神との関係
- 10/15 父と子と聖霊ー神の生命に与る
- 10/22 信仰の決断ー支えられて生きる
- 10/29 ミサ祭儀ー神への奉仕と生活の糧
- 11/ 5 自己実現と神の意志ー生き方の規範
- 11/12 人間の弱さー罪とは何か
- 11/19 恵みとゆるしー神の憐れみを受ける
- 11/26 愛の心ーキリスト教の本質
- 11/27-28 ●黙想会
- 12/ 3 隣人愛ー他人のうちにイエスに出会う
- 12/10 希望を持つ勇氣ー未来に向かって歩む
- 12/17 霊の動きー福音による生き方
- 12/18 クリスマスのミサとパーティ（上智会館5階 第6会議室）
- 12/23 ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
- 1/ 7 聖書と教会ー信仰の基盤になる言葉
- 1/14 秘跡と教会生活ー毎日を養う信仰
- 1/21 神の言葉ー神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/28 結婚と独身ー愛の道
- 2/ 4 信徒・司祭・修道者ー誰もが召されている
- 2/18 仕事という人間の課題ー社会に寄与して働く
- 2/25 人間の苦悩ー悪とは何のためか
- 3/ 4 死ーその実現と克服
- 3/5-6 ●黙想会
- 3/11 人生の完成ー神の内に生きる
- 3/18 聖母マリアー信じる者の原型
- 3/25 ○休み
- 3/26 復活祭のミサ（18時、上智会館3階）

上智大学内クルトゥルハイム2階



新刊紹介

K・リーゼンフーバー著

『超越に貫かれた人間——宗教哲学の基礎づけ——』

長崎純心レクチャーズ・第6回、創文社、2004年4月6日刊行、300頁、2,500円

本書は宗教を人間の本質に根づき、その最高の発展を成している現象として捉え、宗教性の根拠と構造を人間論的に探究する。三つの講義から成る。①人間の尊厳と認識活動に含まれる超越との根本的關係。②聖書の信仰を背景に日常的諸経験（意義の発見・現実の承認・芸術的創造性・信頼・責任・時間における呼びかけ）に見られる萌芽的宗教性の形と内容。③宗教的行為の成立・特徴・諸形態（超越への傾聴・黙想・祈り・信仰）の展開——思想的伝統を視野に入れた現代的問題意識にもとづく包括的宗教哲学。

坐禅会

月曜日：17時20分～20時10分

木曜日：18時～20時30分

場所：上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2004年度

関東

4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時

6月11日(金)20時30分～13日(日)14時

8月7日(土)20時30分～14日(土)14時

10月24日(金)20時30分～11月3日(水)14時

2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 上石神井5600円

秋川神冥窟
1泊2400円程度

関西 5月29日(土)13時～30日(日)16時

7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時

宝塚市②

宝塚市①

連絡先 ① シスター田中 電話 0727-59-3742

② 岸本正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先：

クラウド・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部教授）

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



CWC (キリスト者婦人の集い)

講師：九里 彰 神父 (カルメル会)

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程：2004,

5/11. 火 (了) 7/13. 火 9/28. 火

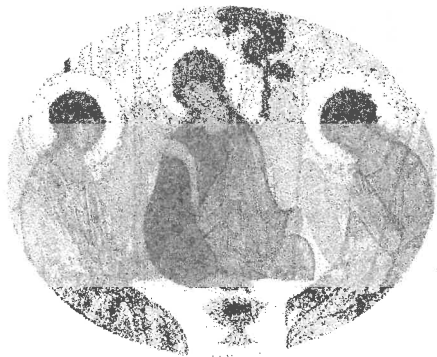
10/12. 火 12/14. 火

時間：午前10:30~

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの2人の妻」「マルタとマリア」
「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。

真命山の霊性



陽の昇るところから
陽の沈むところまで 祈り

黙想会

静けさ 沈黙の中に神の
ま茶を聞く

座禅と十字架の神秘

信仰体験
を分かち

交わり

10日間の黙想

日本の伝統文化に基づく霊性

日時 8月4日(水) 17:00 から

12日(木) 13:00 まで

研究会

2004年度のご案内

キリスト者とは宗教との対話その真意

祈りの集い

テーマ 聖人の祈りに学ぶ

第6回 諸宗教平和の祈りの会

7月8日 聖ベネディクト

日時 2004年10月3日(日)

9月9日 聖フランシスコ

14:00~17:00

サレシオ

10月14日 アビラの聖テレジア

11月11日 福者三位一体の

エリサベツ

12月9日 十字架の聖ヨハネ

尚、個人、グループで黙想会、研修会など
ができますので、ご相談ください
宿泊は10名位迄可能です。

申し込み

〒865-0133

熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

聖心会裾野修道院ヴィラ・フツ（黙想の家）

〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198

TEL: 055-992-2120

FAX: 055-992-2165

A. 個人指導の黙想会・・・(初日夕食6時より最終日の朝食まで)

(2-3日だけの参加も可能)

①2004年7月1日(木)～7月10日(土) Fr. イシドロ リバス (S.J.)

Fr. 村上芳隆 (O.F.M.) Sr.交野

②2004年9月1日(水)～9月10日(金) Fr.アロジオ カンガス (S.J.)

Sr.交野

B. 2泊3日の静修

2004年4月28日(水)午後5時～4月30日(金) 了

Fr.松本秀友(京都教区) Sr.交野

A,Bの申込先: 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会明けの星修道院

Sr.交野君子 Tel,Fax03-3409-1937

往復はがきに、住所、氏名、電話番号をお書きの上、何日の何食～何日の何食までと明記してください。

C. 聖書による個人指導の黙想会

①2004年1月26日(月)～2月4日(水) Fr.松本秀友 Srs.吹田、長谷川 了

②2004年9月10日(金)～9月19日(日) 司祭、Srs.吹田、長谷川

③2005年1月24日(月)～2月2日(水) 司祭、Srs.吹田、長谷川

Cの申込先: 〒108-0072

東京都港区白金4-11-1 聖心会レターレ修道院

Sr.吹田 眞佐子 Tel 03-3446-1270

Fax. 03-3441-0454

〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833 聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel 052-302-4385

Fax. 052-309-1670

D一般黙想 テーマ：自分探し（2回シリーズ）

①2004年11月16日（火）（お弁当持参で、11時集合）～18日（木）昼食まで
Fr.近藤（心のともし火） Sr.長谷川

②2005年春に予定

Dの申込先：〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel.052-302-3485

Fax052-309-1670

E一般黙想 テーマ：小さな事から自分を変えよう。

——新カテキズムを学び祈ろう——

①2004年4月17日（土）11時半～4月18日（日）正午解散（昼食なし） 了

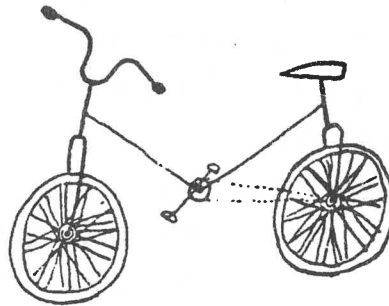
②2004年12月3日（金）11時半～12月4日（土）正午解散（昼食なし）

Eの申込先：〒248-0024

鎌倉市稲村ガ崎3の6の47

早川春日

葉書きで参加する月・日・住所・電話番号・名前を明記してください。



VIDAを聴く

VIDAは、スペイン語で、「いのち」「生活」という意味です。

生きるために“生活”の中で、“いのち”のささやきに耳を傾けてみませんか？

沈黙の祈りと個人面接を通して、聖霊にもっと敏感になれば、

それは、日常生活を生きる原動力となるでしょう。



麦の穂会 主催

(20ほどの修道会・在俗会などが協力して
青年のための黙想会や交流会を企画・実施し
若者と共に祈るグループです。)

日時 : 8月6日(金) 受付 18:00 ~ 10日(火) 14:00
場所 : イエズス会無原罪聖母修道院 (Tel 03-3920-1158)
西武新宿線「武蔵関」駅下車 北口より徒歩 10分

対象 : キリスト者青年男女 (独身)

定員 : 10人

参加費 : 17,600円

持参品 : タオル、寝巻き、洗面道具、筆記用具、他

スタッフ : マルセリーノ 神父 (クラレチアン宣教会)

Sr. セリア・フェルナンデス (キリスト・イエズスの宣教会)

Sr. 深谷 伸子 (援助マリア会)

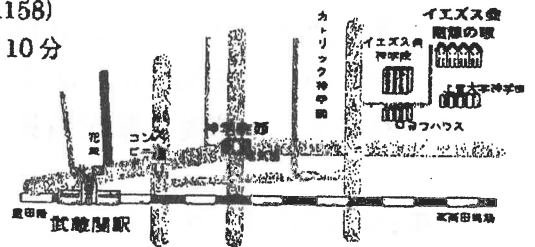
申込締切 : 7月30日(金)

申込・連絡先 : 〒270-0114 流山市東初石5-135-2 キリスト・イエズスの宣教会

Sr. セリア・フェルナンデス TEL/FAX 0471-52-1022

E-mail cefersa@msn.com

イエズス会黙想の家案内図



京都教区・聖書深読黙想会

2004 年度

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解読で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想会にお誘い合わせの上ご参加下さい。

- | | | | |
|-----|-----------|--------------|---|
| 1. | 1月31日(土) | 新井延和神父 | 了 |
| 2. | 2月28日(土) | 奥村 豊神父 | 了 |
| 3. | 4月17日(土) | 奥村一郎神父 | 了 |
| 4. | 5月22日(土) | 新井延和神父 | 了 |
| 5. | 6月12日(土) | 中川博道神父 | |
| 6. | 7月10日(土) | 新井延和神父 | |
| 7. | 9月18日(土) | ペテロ・バーケルマン神父 | |
| 8. | 10月9日(土) | 奥村一郎神父 | |
| 9. | 11月13日(土) | 新井延和神父 | |
| 11. | 12月9日(木) | 奥村 豊神父 | |

場 所： 河原町カトリック会館6階

費 用： 各回 2500円

時 間： 午前10:00～午後4:00

持参品： 聖書・筆記用具・ノート

申込・問合せ：〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内 聖書委員会
TEI：075-211-3484 FAX：075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

主催： 京都教区聖書委員会

上野毛・宇治・大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院(黙想)はカルメルの靈性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」(京阪バス)から循環「御蔵山」^{おくらやま}に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「明礪橋」^{あけがわらばし}下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足
カルメル修道会



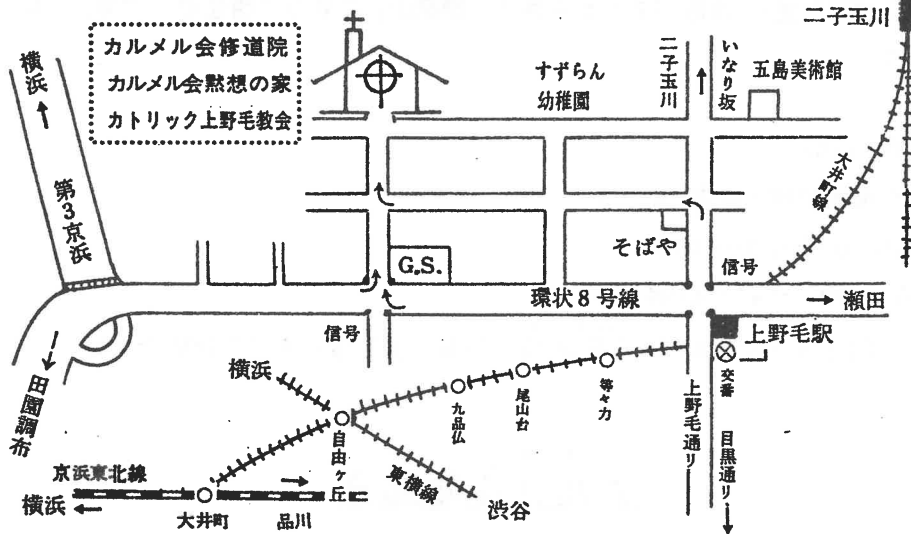
※ イエズスの聖テレジアと聖アントニア姉妹が、ドゥルエロに創立された最初の改革男子カルメル修道院に、十字架の聖ヨハネとイエズスのアントニオを訪問した。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院

黙想 (03) 5706-7355

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL (03) 3704-2171

交通 { 京浜東北線・大井町駅乗換え 大井町線→上野毛駅下車
山手線(渋谷駅経由)・東横線自由ヶ丘駅乗換え 田園都市線・二子玉川駅経由↑



お 願 い

投稿くださるときには、次のようにしていただけると幸いです。

1. 締め切り 毎月10日
2. 原稿サイズ：B5 左右の余白：最低15mm
3. 「心の泉」のコーナーについては、
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4. 「諸所の企画」のコーナーについては、
①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
5. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
6. 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03)3704-2171 Fax (03)3704-1764
7. 「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくために、これからも献金へのご協力をお願いいたします。
郵便口座番号：00190-2-95003 加入者名：カルメル会聖テレジア修道院
通信欄に、「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾4-21-11

Tel (045) 575-5722

編集後記

佐世保で小六の女の子が、友達のをカッターナイフで切って殺すという凄惨な事件が起きた。昼食の直前に呼び出し凶行に及び、死ぬのを待って部屋を出たという。周囲からは大の仲良しと見られていたようであるが、いじめられていたという意識が加害者にはあったようである。被害者が物怖じしない活発なタイプであったのに対し、加害者はおとなしく引っ込み思案…。「窮鼠猫をかむ」ではないが、加害者は切羽詰った状態に追い込まれていたのではないか。

事の真相はともかく、私たちは自分の言葉にもっと慎みと節度を与えるべきであろう。言葉は「両刃の剣」だからである。場を盛り上げるため、よく冗談を言ったり、からかったりするが、無意識下で皆傷ついているように思う。

「あなた方は、悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を作り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい」(エフェ4:29)。(P.九里)

